

令和6年度 標準学力調査の結果と分析について

正答率

【国語】	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校	75.3	76.9	62.9	68.4	69.7	65.5
全国	74.0	75.9	62.3	69.9	71.9	69.9
廿日市市	75.9	79.1	65.5	71.2	74.3	69.1

【算数】	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校	80.0	69.9	63.7	67.6	63.1	64.2
全国	81.1	69.1	70.9	68.0	62.2	67.3
廿日市市	84.8	75.5	73.7	73.0	66.6	67.9

学年別の主な解答の傾向（◎成果●課題△今後の取組）

1年	国語	◎説明文・物語文ともに、読み取り問題の正答率が高い。 ●語彙、自由記述（作文）を一文も書かない児童が多い。 △連想ゲームなどゲームで語彙を増やす、日記を継続的に書き、文を書く練習をする。
	算数	◎基礎的な計算はできる。 ●立式する力、問題作りの力に課題がある。 △問題場面をイメージして、動作化や絵、図で増減の感覚を養う。
2年	国語	◎物語の読み取りが、全国と市町村の平均値より高い。 ●説明文の内容を読み取ったり、条件に合わせて文章を書いたりすることに課題がある。 △文章の読みとりを行う中で、叙述に沿った読み方を繰り返し行う。読書の習慣をつける。
	算数	◎基礎的な計算問題の正答率は高かった。 ●単位換算の理解が不十分。説明することに課題が見られる。 △具体物を操作する場を意図的に仕組む。説明する場面を増やす。
3年	国語	◎記述形式の問題は、全体的に全国平均値より高い。 ●説明文において、文の内容や要点を押さえて読み取ることが難しい。 △話し合い活動や学級会を行い、意見をまとめたり要点を押さえたりする練習をする。
	算数	◎乗法において、式に合った問題文を考えることができる。 ●問題の解き方を説明することが難しい。 △授業の中で、説明をする必要感を持たせ、説明し合う場面を増やす。
4年	国語	◎物語の読み取りが、全国平均率より高い。 ●漢字や言葉の意味の理解が難しい。 △単元ごとに語句や漢字の確認の時間を取り入れる。
	算数	◎小数の数の認識は達成率のポイントが高い傾向にある。 ●知識・技能といった基礎的な問題に課題がある。 △各単元における基礎的な技能を身につけさせるために、意識的にフォローしていく。
5年	国語	◎最後まであきらめず学習に向かう児童が、昨年に比べて増えている。 ●「10字以内で書き抜く」などの条件に合わせて答える問題は、正答率が低い。 △普段のテストでも、文章問題の答え方に課題が多い（解答が長すぎる・漢字や平仮名表記を勝手に変えてしまうなど）ので、児童と確認して教えていく。
	算数	◎児童同士の教え合いの関係ができてきたため、底上げにつながった。 ●計算力が低く、問題を解く時間が足りない児童が一定数いる。 △四則計算・単位の変換など、基礎的なドリル学習を引き続き行う。
6年	国語	◎聞き取り、漢字の読みはよくできていた。 ●漢字の書き、説明文全体の内容の捉え、最後の条件に合わせて書く問題の正答率が低い。 △漢字を書く、文章を書くなど実際手を動かして文字を書く時間を意識して取る。 読むことへの抵抗感をなくすためにも読書の習慣をつける工夫をする。一問一答ではなく単元を大きく捉え課題に向かう授業を行う。
	算数	◎基礎的な分数の計算や比の問題の正答率は高かった。 ●分数の乗法・除法の問題場面の理解が不十分で、正しく立式ができていない。 △分数を整数に置き換えたり、複数の問題を整理したりしながら考え、理解につなげる。